

とっとうと通信は 平川の分身が お客様のところにゴザンに伺う。という気持ちでお届けいたします。当然ですが無料です。

とっとうと通信

2024年8月16日発行

257号

「とっとうと通信」は
読むとワクワク。
いつも読んでいただき
ありがとうございます。



こんにちは！平川です。8月は原爆の日、終戦記念日、お盆といった、平和や命について考える機会がたい月です。ということもあり、今回は、私の大叔父さんのことを書きたいと思います。

さて爆弾三勇士(肉弾三勇士ともいう)ってご存知ですか？爆弾三勇士の一人、作江伊え助は私の大叔父です。(写真真右)

爆弾を抱えて敵陣に突入したのは、今から92年前、昭和7年2月22日、21歳の時でした。

爆弾三勇士とは、久留米独立工兵第18大隊の、江下武二氏、作江伊え助氏、北川丞氏の三名を言います。1932年(昭和7年)、日中両軍が衝突した、上海事変でのことです。上海郊外に築かれた敵陣は、トーチカと鉄条網で守られており、さらに機関銃の応戦にもあい、日本軍は進めず苦戦していました。鉄条網を破壊し、突撃路を作ることが急務であったため、無謀ともいえる作戦が立てられました。

す。それは火薬が詰まった青竹の筒を脇に抱え、導火線に火を着けたまま、鉄条網へ突っ込むという作戦でした。これに36名が志願し、前途の三名も選ばれます。翌日、作戦は決行され、三名は爆発によって戦死しますが、鉄条網の破壊は成功し、日本軍は突入出来たのでした。

しかし三名の死は、技術的失敗によるものという説もあります。



「導火線」を短く切断し、予め導火線に点火して突入したところ、3人の先頭に立った北川丞氏が撃たれ、3人とも倒れてしまい、タイムロスを生じ、戻ろうとしたところ、そのまま突っ込めと言われたので、その通り突入し、目的地点に到着するかもしれない内に爆弾が爆発してしまっ、事故。つまり、自ら死を志願したのではなく、任務と命令に忠実だった若者たちの死だったのです。ところが各社新聞がこれを美談として報道します。

「無双、三勇士の最後」、帝国万歳と叫んで吾身は木っ端みじん、「忠烈、まさに粉骨碎身」。その後も過熱な報道は収まらず、日本に大ブームが起きます。まず日活をはじめ大手映画会社により、爆弾三勇士の映画が6本つくられます。また歌舞伎、浪曲、落語、琵琶、浄瑠璃...あらゆる芸能が競って上演します。

連日満員で観客は涙を流し絶立ちになり、万歳と叫んでいたと書いてありました。書籍も多く出版され、小学校の教科書にも取り上げられます。軍歌も7曲作られ、なかには与謝野鉄幹(与謝野晶子の夫)作詞や、古賀政男作曲の曲もありました。また陸軍始まって以来という、個人あて義援金が全国から集まります。さらには三勇士の模様がグリーコのおまけになり(今でもヤフオクで高値販売)、キリンビールはホスターに起用します。宣伝に使った何でも爆売れしたようです。

まるでアイドルです。小中学校の運動会では、筒を三人で持って競走する競技にもなり、子供たちには、肉弾三勇士「ごっ」が大流行しました。



これはさすがに不謹慎です。私、思うのですが、おそろしく熱狂的なブームはメディアによってつくられ、軍国美談として国威発揚に利用されたのでしよう。曾祖父が新聞社のインタビュアーにこう答えていました。「おかげさまでせがれがお役に立ちましたとついで...」

この騒ぎをどう見ていたのでしょうか。やるせない気持ちだったと思います。

さて先月、東京の靖国神社へ行って来ました。鳥居の手前、左右に二基の大燈籠があります。左側が陸軍、右側が海軍の主な戦闘場面のレリーフが各7面、大燈籠の基壇に埋め込まれています。

写真で見ると、突撃隊は初めにみまされた。泣けてきました。日本のためにありがたうと書いています。祀られている方々に恥かしくない生き方をいたします。



発行/有限会社アサム 平川雅樹
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002

・伊都倫理法人会ブログ : <https://itorinri.com/>

ご感想や楽しいメッセージをお待ちしています。 X-16: hirakawa@asam.jp FAX: 092-321-4002

※一部ウキペディアより引用しました。